



長野県
上水内郡三水村



2002年度は、エコカード基金による活動ではなく、コスモ石油主催・NPO「APSD」のサポートにより、約30名のコスモ・ザ・カード「エコ」会員の方々に、棚田での稲刈りを体験していただきました。参加された方々からは、棚田での農業の大変さ、大切さ、景観の美しさなどに対して多くの声をいただきました。

エコキャンプに
参加された
コスモ・ザ・カード
「エコ」会員様の声

「車の排気ガスなどで公害になっている東京とちがって、長野はとてもきれいでした。本来の地球を見落としている人に、稲刈りなどの色々な体験をしてほしいと思いました。」

(10代・女性)

「テレビで流れるコスモ石油の映像を見ては、今回のキャンプに思いを馳せ、子ども・親ともに楽しみにしておりました。ありがとうございました。三水村の現状には、少し驚かされました。皆、大変なんですね。」

(40代・女性)

次世代を担う子どもたちに、 棚田での環境教育を行います。

2003年度より支援を開始するプロジェクトです。

棚田は日本の美しい原風景ともいえる伝統的な水田で、小さなダムと呼ばれるほどの保水力を持っています。しかし中山間地域では、過疎化や少子高齢化などによって棚田の荒廃が進み、放置しておくとも自然災害が拡大する恐れもあります。棚田を保全するには、棚田で再び稲作を行う必要があります。

長野県上水内郡三水村は、周辺の村々が観光地化を進める中、自然環境や農業を大切にしていこうという方針を掲げてきた、美しい景観を持つ村です。私たちは、この村を舞台にプロジェクトを実施することにしました。

棚田保全活動と環境教育を一体化させれば、都会と農村、次世代を担う子ども

たちと高齢者の方々の間に交流が生まれ、大きな効果が生まれるはずでした。私たちは、田植え、稲刈り、村との交流や自然体験などを、学校教育の「総合的な学習の時間」に組み込み、教室での授業と合わせて学習するという計画を立てました。2003年度は、環境教育に熱心に取り組んでいる川崎市立桜本小学校の6年生約50名を対象に、棚田での体験学習を実施する予定です。さらに、農業体験だけでなく、荒廃した棚田や畑の復旧などにも取り組むべく、村の方々やプロジェクトパートナーのNPO「APSD」とともに将来の構想を検討しています。

